

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホーム ほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	令和3年1月22日	評価結果確定日	令和3年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和3年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2019年8月から開所10年目に入り、落ち着いてきたかと思っていたところに、新型コロナウイルス感染防止のため、面会が禁止になったり、慰問をして頂く事ができなくなったり、楽しみにされていた色々な行事が中止になり出掛ける機会も少なくなりました。がその分職員が色々なアイデアを出して夏まつりを計画したり、敬老会やクリスマス会では出し物を披露したりゲームをしたりして、ご利用者様に楽しんでもらえる様にと努力し、2020年をご利用者と共に笑顔で楽しく過ごせました。又、2年間の間に3名の看取り介護にも取り組み、ご家族に看取られ最期を迎えられた事に感謝の言葉を頂く事もできました。ご利用者の笑顔を見る事と、ご家族のご意向に添う支援を継続し、この自然の中で楽しく過ごせる施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念を具現化するために、月間目標の「入居者の言葉に耳を傾け、寄り添った介護」を両ユニット合同の朝夕の申し送り時、唱和している。昨年末に入居された方の「ここは良い所だけど、家に帰りたい」と繰り返し話される思いを傾聴し、安心できる暮らしを模索している。自らホームでの看取りを希望されていた103歳の入居者は、逝去される前日までホールで過ごされ、居室で家族に囲まれた最期であった。看取った他の入居者の家族からも、「ここで良かった」との謝辞が寄せられている。昨年10月久しぶりに開催した運営推進会議では、地域代表者から「できるだけ面会させて欲しい」との意見もあった。管理者は、明るい笑顔の若い職員の育成に取り組み、職員其々が特技を活かしながら、今後も家族や地域の理解や協力を得て地域密着型サービスの展開が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 星グループ/星寿園グループホームほしのさと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はあるが、事業所の理念作成に至っていない。ユニットの理念は過去に作ったままのものであるが、月目標をあげて、申し送り時唱和している。	両ユニット合同の朝夕の申し送り時、月間目標の「入居者の言葉に耳を傾け、寄り添った介護」を唱和している。昨年末に入居された方の繰り返し話される思いを傾聴し、安心できる暮らしを模索している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の前は、地元の方の踊りの慰問等あったが、現在は来ていない。又、地域への参加も困難な状況。	コロナ禍の中、ホーム独自で開催した夏まつりで作ったヨーヨーを、敷地内から移転した保育園に持参している。敬老の日には園児から手書きのメッセージのプレゼントがあるなど、交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症の理解や支援の方法等話す機会は設けていないが、運営推進会議に区長や民生委員の方に出席してもらい、認知症の理解をして頂く事に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議は開催、内容は、利用者の状況報告や、活動報告、ヒヤリハット報告を行っているが、コロナ禍に於いては会議の開催はせずに2ヶ月間の報告として資料を配布している。(コロナ禍では10月に1度だけ開催する)	令和2年10月久しぶりに開催した運営推進会議では、近況や活動、ヒヤリハットなどを報告し、地域代表者から「コロナ禍で面会できないことは分かるが、できるだけ面会させて欲しい」との意見があった。会議録や家族のお礼の手紙は、玄関で公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方には運営推進会議にも出席して頂いている為、GHの状況は把握して頂いている。コロナ禍でも、空き情報を伝えたり、問い合わせがあったり協力関係は築いている。	日頃から市担当者から空き室状況の問い合わせを受け、地域包括支援センターの紹介で入居された方もある。区長会などの協力を得て、法人広報誌の全戸配布が継続し、法人の活動内容や情報伝達の場になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せずセンサーで出入りの確認を行ったり、時々手動にして開閉出来る様にしている時もある。身体拘束をしないケアについて、資料配布等で職員には伝えている。	毎月のケア会議で身体拘束について話し合ったり、身体拘束等の自己チェック表を配布し、適正化に取り組んでいる。「家に帰りたい」との思いを受け止め、門扉まで同行し、歩いて帰れないことを納得してもらったり、隣接する施設に伴侶が入所していることを説明し安心してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加がなかなかできないが、ケア会議等で資料配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	独居から入居された利用者様のご家族が遠方の為、独居利用時から社協の金銭管理支援を受けてあり、そのままその支援を受けられている。ただ、GHの職員がその支援等についての研修等ない。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備している。入居前から日常生活自立支援事業を活用されている入居者があり、利用料金などの支払いに支援員が来訪している。	入居者の権利を擁護するために、日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修会開催や資料の配付を期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前又は入所の際、ご家族へ管理者から契約に関する説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	偶数月に運営推進会議を開催し、地域の区長や民生委員、ご家族から意見を頂き、職員に報告している。又、家族面会時にご家族の希望等を伺う様にしている。	2ヶ月毎のホーム便りには満面の笑顔が掲載され、毎月の一筆便りで暮らしぶりを報告している。面会もままならない状況のため、個別の写真と同封し、家族等の意見の表出を促している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月のケア会議等で意見等を出し合い話し合っている。	毎月、全体会議後に各ユニット会議を開催している。職員の提案で初めて夏祭りを開催したり、ユニットの状況に応じた業務体制を話し合っている。園長が年1回職員と面談し、雇用に関する聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回人事評価を実施している。その他施設長が、個別に面談を行い、聞き取りを行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢層が10代から70代と幅広く、1日の業務は勤務表に基付き行っており、職員の特徴、得意分野を活かして支援行っている。ご利用者のモニタリングや誕生日カード等担当制で支援している。	「若い職員が多くなり、明るい笑い声がある」と、管理者は笑顔で人材育成に取り組んでいる。介護福祉士の資格取得が法人の正職員雇用の条件で、新任や実践者研修に其々1名が参加している。希望休や有休取得を支援し、季節の壁紙づくりを順番に担当するため、中にはパソコンを習得した職員もあり、職員其々が特技を活かして就労している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設全体で勉強会を行い、高齢者虐待防止法等の研修がある。	高齢者虐待防止など人権に関する研修会は法人全体で開催している。管理者は日頃から接遇に留意し、言葉遣いや口調について指導している。コロナ禍の折、保険者主催の研修会の開催はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH部会研修や地域密着型研修等の案内が来た際、声掛け行い、参加を募っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修参加を募っているが、参加者少なく、コロナ禍に於いてはオンライン研修は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に、計画作成担当者がご本人と面談し、困っている事や不安な事、要望等を聞き取りプラン作成を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や入所時にご家族から、困っている事や要望等聞き取りをしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望や意向を会話などからくみ取る様に努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事の準備をしたり、茶碗洗いや拭き、洗濯物干しやたたみ等一緒に行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、不穩時に電話対応して頂いたり、担当からの手紙で様子を伝えたり、不備な品を持ってきて頂いたりして一緒に支えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に入居されていた施設に伺って職員さんと会話されたり、ご自宅の様子を見に行ったりされている。	短時間少人数でドアの窓越しやデッキでの面会を支援した時期もあるが、再び緊急事態が発令され、面会を中止している。入居者の希望で家族に電話をかけるなど、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールのソファや椅子に座ってご利用者同士会話されている。足を上げる箱を置いてあげたり、お世話をして下さる方もいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスご利用が終了されても、ご家族からご相談あれば伺う事はしているし、ご家族から”ここに来れば母がまだいる様な気がします”と当時お母様に持参されていたお家になった果物を持って来て下さったり、関係性が継続されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の意向をくみ取れる様に、帰宅願望出られたら、一緒に外に出てみたり、自宅まで様子を見に行ってみたりしている。	家族に夜中携帯電話をかけたり、「ここは良い所だけど、家に帰りたい」など入居間もない方の思いに耳を傾け、寄り添う支援を継続している。管理者やケアマネージャーは、自らが経験した家族其々の立場や思いを伝えることで、納得される場面もあると話している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報に基付き、入居されてからも不安がない様に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝食後と、夕食後に様子伺いながらバイタルチェックを行い、その後レクリエーション行ったりする中で異常に気付く様に気を付けている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア会議を行い、その中で状況報告や対応策等話し合っている。ご家族に協力依頼する事も、プランにも反映させている。	担当職員がモニタリングを行い、毎月のケア会議で情報を共有し、介護計画の見直しに繋がっている。安心して暮らして欲しいと、日々の訴えを傾聴し、入居者自ら実施している脳トレを応援したり、飼い猫のお世話をお願いしている。今後は訪問看護と連携し、家族との話し合いを検討している入居者もある。	個々の認知力のレベルを十分に把握し、傾聴や共感、現実認識の促進などで、入居者が納得できる支援を期待します。又、家族との電話で落ち着かれる入居者もあることから、サービス内容への落とし込みをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや利用者申し送りノート、介護日誌によって情報共有できている。又、毎月のケア会議で介護計画の見直しに繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の希望や要望には出来るだけ答えたいと思っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地元の美容室、理容室から訪問してもらいカットサービスが行われている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1度、定期受診をかかりつけ医で受診してもらい、健康状態を把握して頂いている。又、専門医受診が必要な時は、紹介状を書いて頂き、ご家族付き添いにて受診してもらっている。	混乱を防止するために2名の入居者が、入院先の訪問診療や訪問看護を受けている。他の入居者は法人理事長がかかりつけ医で、系列事業所から看護師が週1回訪問し、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、正看の健康チェックを受けて、その結果や治療方針等を聞き、申し送りやノートに記載し、職員が統一した支援が出来る様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送される時は一緒に同行し、入院時は情報提供を行い、入院期間中は、SWと情報交換を行いながら退院調整を行い、退院時はサマリー等で身体の状況把握を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合に係る指針を説明し、ご理解頂ければ同意書頂き、ご家族のご意向を伺っているが、重度化になられた時、新たにご家族のご意向をはっきり伺い、かかりつけ医とも話をし支援に繋げている。	家族の同意もあり自らホームでの看取りを希望されていた103歳の入居者は、前日までホールで過ごされ、感染防止に配慮しながら、居室で家族に囲まれた最期であった。他の看取った入居者の家族からも、「ここで良かった」との謝辞が寄せられている。看取り経験は、酸素の取り扱いなどの知識があった方が良いと考える機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成は行っているが、定期的な訓練はコロナ禍も重なり出来ていない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回消防署立ち合いの下で、日勤帯想定、夜勤帯想定で行っているが、地震や水害時の訓練は行っていない。マニュアル作成はできている。	昨年12月実施した夜間対応の避難訓練では、マニュアルに沿って2名の職員で入居者を非常口に誘導している。立ち会った消防署から危機感がないとの指摘があった。ご飯や缶詰などの食料品や消毒薬や手袋などを備蓄し、一覧表を作成している。	昨今の異常気象等から、入居者に関する持ち出し書面の検討を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々口調が強い言葉掛けになってしまう時がある為、月目標にあげて、言葉遣い注意する様に心掛けている。	○さんと氏名で呼称している。管理者は方言が伝わりやすいことも多いが、優しい声かけを指導している。調査時も入居者に合わせた声かけが行われ、穏やかな雰囲気であった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向や意見等聞き取りする様に心掛けている。ご自分からなかなか言い出せない方に関しては、普段からの会話や行動の中で汲み取る対応を心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話や行動の中で、散歩やドライブに行きたい方は出掛けたり、何かやりたいと言われる意向に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔時クリーム提供したり、洗面所に櫛(ブラシ)を準備している。季節に併せて服は準備しているが、季節外の服を着て来られた時等は会話にて対応、支援行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や片付けを利用者と一緒にして、食事は同じ食事を一緒に食べている。食事摂取量が落ちている方には、栄養食品を提供している。	昨年の夏祭りは、食券を使ったたこ焼き、焼きそば、アイスクリームなどを楽しんでいる。調査日は節分の恵方巻が食卓に並び、「美味しい、又」との希望もあった。お雛様はちらし寿司、誕生日は赤飯などで、季節や希望の献立となっている。職員も同じ食卓で同じ食事をとりながら、入居者其々のペースでの食事を見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食個人記録用紙に記入し、水分も定期的に提供し、数名の方はペットボトルに水を入れて夜間も飲んで頂ける様にしている。献立は食事担当が行っているが、母体の栄養士の監修まではしていない。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自分で出来る方はご自分で、支援必要な方は、義歯洗浄等行い努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的にトイレ誘導行ったり、声掛けし毎日排泄チェックを行い記録している。夜間ポータブルトイレを使用されている利用者は、監視時確認し尿破棄行なったり、センサーマット使用で早めに訪室し排泄支援行っている方もいる。	トイレでの排泄を重視しているが、夜間のみポータブルトイレを使用する入居者もある。転倒を防止するためベッド下にセンサーを設置し、安全な排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便チェック行い、排便無い日連続と緩下剤を服用してもらったりしてコントロール行っている。数名の方はヨーグルト摂取されており、冷たい牛乳提供する時もある。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めて入浴して頂いているが、当日ご本人が入りたくないと言われた時は、翌日にする等臨機応変に行っている。同性介助で入浴されてる利用者もいらっしゃる。	週2回、桜香る入浴剤で入浴を支援している。「毎日家で入っているから」との入浴拒否や浴槽から上がるのを嫌がられる場合には、タイミングや声かけを工夫している。職員の介助に立腹される場合は、耳元でゆっくりしっかりと声をかけるように、管理者は指導している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で休まれたり、ホールソファで休まれたりされてある。居室には各室エアコン・加湿器(冬場)設置されており、調整している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書をファイルに綴り、職員がいつでも閲覧出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前されていた事の継続として、炊事、洗濯等の手伝いをして頂いている。趣味の編み物をされたり、近隣散歩、ドライブをされてある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望聞かれたら自宅まで出掛けたりして支援行っている。コロナ禍前は、ご家族と一緒に出掛けられたりされていた。	コロナ禍の中、ホーム便りには近くの公園での桜の花見や散歩の様子が掲載されている。月1回、妹や姪と自宅に帰り、自宅で弁当を食べていた入居者もあるが、今後の予測が出来ない状況である。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は入所時には持ち込まない様をお願いしているが、数名の方財布にいくら預かり、そこから必要な物の買い物をして支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと言われれば、ご家族に電話を掛けてあげて会話してもらっている。又、携帯持参されているご利用者は自由に電話されてある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく広いスペースで過ごし、一緒にテレビを見たり、レクレーションをされている。毎月担当が壁面装飾をして季節感を出している。	壁には入居者との共同制作や職員手作りの季節の絵や写真が飾られている。訪問調査日は、広く明るいホールは中央にテーブルが並べられ、恵方巻会食の場となった。傍のソファでゆったり寛いだり、テーブルで丁寧に洗濯物をたたまれる入居者もいる。外のウッドデッキから猫のトミーが入居者を見守り、管理者だけでなく素足で過ごす入居者もある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや椅子に座ってご利用者同士会話されている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、ご本人の使い慣れた物を持って来て頂き環境の変化が余りないようにして頂いている。	居室の花の名前や氏名が表示された木製の表札だけでなく、ドアに大きく名前を掲示した居室もある。家族写真や職員作成の季節の壁紙を貼ったり、ソファや筆筒、お位牌を持参されている入居者もある。どの居室も清掃が行き届き、整理整頓され、居心地よい居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手摺りが設置されていて、床はカーペットが敷かれて転倒防止に努めている。		